

## 平成27年7月の「論点整理」後の主な動き

平成28年11月4日

## 1. 概要

## (1) 「論点整理」において指摘された今後の課題

昨年7月の「論点整理」の「終わりに - 今後の課題」において、以下の4項目が残された課題とされた。

- 国の関与のあり方
- 施設の設置運営に伴い第三者に被害が発生した場合の補償対応
- ヒューマンエラー対策やテロ対策を含む安全確保
- 地域との共生

## (2) その後の国の動き

国においては、昨年9月に「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本方針」を、本年2月に「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画～絶え間ない感染症の脅威に挑戦する日本のアクション～」を策定・公表した。

また、政府部内の多角的検討を経て、本年7月には「BSL4施設整備に係る大学の対応と国の関与に係る検討状況」を取りまとめ、「長崎大学における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会」等において、国の関与の具体的内容を示してきた。

## (3) その後の地域の動き

長崎大学としては、(1)の課題を解決するために、長崎県、長崎市とともに、「感染症研究拠点整備に関する連絡協議会」（以下「三者連絡協議会」という。）を8回開催し、多角的な検討を行ってきた。

同時に、長崎大学坂本キャンパス周辺の地域社会の方々のご疑問やご不安を共有し解消するための説明会を開催するとともに、新たに三者連絡協議会の下に、「長崎大学における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会」（以下「地域連絡協議会」という。）を設置し、これまで7回開催した。

## 2. その後の国の動き

## (1) 「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本方針」

(平成27年9月11日 国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議決定)

【参考資料集 P82】

一昨年(平成25年)の西アフリカでのエボラ出血熱の感染拡大等を通じて得られた

様々な教訓や、国際社会の動向も踏まえ、国際的に脅威となる感染症対策について、関係行政機関の緊密な連携の下、その効果的かつ総合的な推進を図るため、昨年9月11日、内閣総理大臣が主宰する「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議<sup>\*</sup>」（平成27年9月11日閣議口頭了解）（以下「閣僚会議」という。）が新たに設置され、「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）が同閣僚会議において決定された。

以下に基本方針から長崎大学関連部分を抜粋した。  
（基本方針 P11-13。なお、太下線は、長崎大学で追加。）

### 3. 重点的に強化すべき事項（中長期的な取組を要する事項を含む）

#### （2）国内における感染症に係る危険性の高い病原体等の検査・研究体制の整備

今回のエボラ出血熱の感染拡大における対応を踏まえ、危険性の高い病原体等の検査・研究体制について、国立感染症研究所の体制整備、国内の大学等研究機関における基礎研究能力等の向上のための体制整備、今後の我が国における BSL 4 施設の在り方の検討等を踏まえ、我が国全体としての危機管理能力等の更なる向上を図る。

#### ① 国立感染症研究所の検査体制の整備

国立感染症研究所においては、積極的な情報開示や地域とのコミュニケーションを推進することにより周辺住民の不安や懸念の払拭に努め、高度安全試験検査施設（BSL 4）における業務を安全に実施できる体制を整備する。

#### ② 国内の大学等の研究機関における基礎研究能力及び人材育成向上のための体制の整備による感染症研究機能の強化

国内の大学等の研究機関における基礎研究能力の向上及び危険性の高い病原体等の取扱いに精通した人材の育成・確保のため、病原体解析、動物実験、治療法・ワクチン開発等の研究開発が可能な最新の設備を備えた BSL 4 施設を中核とした感染症研究拠点を形成することにより、我が国における感染症研究機能の強化を図る。

#### ③ 我が国における BSL 4 施設の在り方の検討

昨年3月の日本学術会議の提言<sup>\*</sup>等において、BSL 4 施設は科学的基盤が整備されている場所に設置されること、地震等自然災害による使用不能事態に備え、複数の BSL 4 施設を互いに地理的に離れた地域に建設すること、国が運営・管理に責任を持つこと等の必要性が指摘されている。

我が国において望ましい BSL 4 施設の配置及び役割等については、先進諸国の動向や上記のような国内有識者の意見等も踏まえ、中長期的な視点で感染症発生時における安全の確保、検査体制の整備及び研究開発の推進の観点から検討を行うことにより、我が国全体としての感染症に対する危機管理能力の向上を図る。

#### ④ 感染症関係の研究開発の推進

「医療分野研究開発推進計画（平成 26 年 7 月 22 日健康・医療戦略推進本部決定）」に基づき、国民の健康を守るために必要な疫学情報を収集し、リスクアセスメントを行うとともに、治療薬・診断薬・ワクチンの国内創出を図るべく、新興・再興感染症に関する基礎・臨床研究を推進するほか、国際科学技術協力の戦略的展開により、国際共同研究等を推進することにより、感染症対策に係る基盤強化を図る。

\*提言「我が国のバイオセーフティレベル（BSL-4）施設の必要性について（平成 26 年年 3 月 20 日 日本学術会議基礎生物画学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学員会合同総合微生物科学分科会）」

#### ※「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」の構成員

内閣総理大臣、総務大臣、法務大臣、外務大臣、財務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣、防衛大臣、内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）、国家公安委員会委員長、健康・医療戦略を担当する国務大臣及び内閣官房長官。

### (2) 「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画～絶え間ない感染症の脅威に挑戦する日本のアクション～」

（平成 28 年 2 月 9 日 国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議決定）

【参考資料集 P100】

さらに、国際的な脅威となる感染症対策について、本年 G7 議長として、国際的な議論を主導するとともに、国際協力・国内対策のさらなる強化を図るため、「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本計画」（以下「基本計画」という。）が取りまとめられ、関係行政機関等の緊密な連携の下、その総合的かつ効果的な推進を強力に図ることとされた。

以下に基本計画から長崎大学関連部分を抜粋した。（基本計画 P17）

#### 4. 感染症研究体制推進プロジェクト

##### (1) 感染症研究拠点の形成

- 国内の大学等の研究機関における感染症に係る基礎研究能力の向上及び危険性の高い病原体等の取扱いに精通した人材の育成・確保等を図るため、病原体解析、動物実験、治療法・ワクチン開発等の研究開発が可能な最新の設備を備え、安全性の確保に最大限配慮した BSL4 施設を中核とした感染症研究拠点の形成について、長崎大学の検討・調整状況等も踏まえつつ、必要な支援を行うなど、我が国における感染症研究機能の強化を図る。【内閣官房、文部科学省、厚生労働省】

- このため、本年度内に、関係省庁、関係自治体及び大学等から構成される協議会を内閣官房に設けて、上記の BSL4 施設を中核とした感染症研究拠点の形成に必要な支援方策等について以下の点を含め検討・調整し、推進する。【内閣官房、文部科学省、厚生労働省】

- ①BSL4 施設の具体的な活用方策等

- (感染症に関する病原体や疫学等の基礎研究・人材育成、医薬品創出のための研究開発等、そのためのネットワークや連携・協力の在り方)

- ②BSL4 施設の機能及び運営方法等の在り方

### (3)「感染症研究拠点の形成に関する検討委員会」の設置・開催

(平成 28 年 3 月 31 日 国際的に脅威となる感染症対策推進チーム長決定)

#### **【資料 3-1】**

- ・ 第 1 回検討委員会 (平成 28 年 4 月 27 日)

- ①BSL4 施設に係る検討状況等について

- ②検討委員会における論点について

### (4)「BSL4 施設整備に係る大学の対応と国の関与に係る検討状況」

(平成 28 年 7 月 13 日 内閣官房国際感染症対策調整室、文部科学省研究振興

局研究振興戦略官付、厚生労働省健康局結核感染症課)【資料 3-2】

## **3. その後の地域の動き**

### (1)「感染症研究拠点整備に関する基本協定」の締結と三者連絡協議会の開催

平成 27 年 6 月 17 日に、長崎県、長崎市、長崎大学の三者で締結した「感染症研究拠点整備に関する基本協定」に基づき、8 月 26 日に三者連絡協議会※を設置し、これまでに 8 回開催してきている。

- ・ 第 1 回三者連絡協議会 (平成 27 年 8 月 26 日)【参考資料集 P378】

- ①長崎大学における高度安全実験 (BSL-4) 施設設置計画の必要性和今後の課題について

- ②連絡協議会の今後の進め方について

- ③高度安全実験 (BSL-4) 施設の設置場所について

- ・ 第 2 回三者連絡協議会 (平成 27 年 10 月 21 日)【参考資料集 P489】

- ①高度安全実験 (BSL-4) 施設の設置場所について

- ②地域住民の皆様への説明の現状について

- ・ 第 3 回三者連絡協議会 (平成 27 年 11 月 20 日)【参考資料集 P532】

- 高度安全実験 (BSL-4) 施設における安全確保の方策について

- ・ 第 4 回三者連絡協議会 (平成 27 年 12 月 21 日)【参考資料集 P578】

- 高度安全実験（BSL-4）施設における安全確保の方策について
- ・第5回三者連絡協議会（平成28年2月18日）【参考資料集 P595】
  - ①高度安全実験（BSL-4）施設における安全確保の方策について
  - ②平成28年度における長崎大学の高度安全実験（BSL-4）施設に係る予算の概要について
  - ③国の関与について
  - ④地域に開かれたBSL-4施設の設置（運営）について
- ・第6回三者連絡協議会（平成28年3月22日）【参考資料集 P672】
  - 地域住民参加の地域連絡協議会について
- ・第7回三者連絡協議会（平成28年4月26日）【参考資料集 P704】
  - 地域住民参加の地域連絡協議会について
- ・第8回三者連絡協議会（平成28年10月19日）【参考資料集 P719】
  - ①地域連絡協議会の経過報告について
  - ②その他の地域との共生のための活動について

※「感染症研究拠点整備に関する連絡協議会」の委員

長崎県福祉保健部長、長崎市企画財政部長、長崎市市民健康部長、長崎大学が指名する長崎大学学長特別補佐、長崎大学熱帯医学研究所長

## (2) 地域連絡協議会の設置・開催

上記の第5回及び第6回三者連絡協議会において、地域に開かれたBSL-4施設の設置（運営）についての議論が行われ、平成28年4月1日、三者連絡協議会の下に地域連絡協議会※を設置し、これまでに7回開催してきている。【資料4-1、資料4-2】

- ・第1回地域連絡協議会（平成28年5月12日）【参考資料集】
  - ①長崎大学が進めている高度安全実験（BSL-4）施設を中核とする感染症研究拠点整備について
  - ②議事運営について
- ・第2回地域連絡協議会（平成28年6月2日）【参考資料集】
  - ①前回会議での指摘事項について
  - ②意見交換
- ・第3回地域連絡協議会（平成28年6月30日）【参考資料集】
  - 前回会議での指摘事項について
- ・第4回地域連絡協議会（平成28年7月13日）【参考資料集】
  - ①BSL4施設整備に係る大学の対応と国の関与に係る検討状況について
  - ②これまでの会議等での指摘事項について
- ・長崎大学熱帯医学研究所BSL-3実験室・熱帯医学ミュージアム等見学会

(平成 28 年 7 月 24 日、26 日、27 日、29 日)

- ・ 第 5 回地域連絡協議会 (平成 28 年 8 月 3 日) 【参考資料集】
  - これまでの会議等での指摘事項について
- ・ 第 6 回地域連絡協議会 (平成 28 年 8 月 31 日) 【参考資料集】
  - これまでの会議等での指摘事項について
- ・ 国立感染症研究所村山庁舎 BSL-4 施設の視察 (平成 28 年 9 月 9 日)
- ・ 第 7 回地域連絡協議会 (平成 28 年 9 月 27 日) 【参考資料集】
  - ①国立感染症研究所村山庁舎への視察について
  - ②これまでの会議等での指摘事項について

### (3) 長崎大学から地域社会への感染症に関する情報提供

#### ①公開講座の開催

長崎大学は、平成 22 年以降、36 回に及ぶ公開講座を開催し、地域社会に対して感染症に関する情報を提供してきた。

最近では、以下の公開講座などを開催した。【資料 4-3】

#### ○「エボラ出血熱および BSL-4 施設に関するシンポジウム」

(平成 27 年 11 月 25 日)

今般の西アフリカにおけるエボラ出血熱の流行に当たり、EU 諸国で構成された現地検査診断グループのリーダーを務められた、ドイツ・ハンブルグのベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所のウイルス部長・ギュンター博士をお招きして、エボラ出血熱の状況と BSL-4 施設の役割や重要性、ドイツにおける施設の稼働状況などについて講演いただいた。

#### ○「蚊が媒介するウイルス感染症 ジカ熱・デング熱など」

(平成 28 年 4 月 23 日)

現在話題になることが多い、蚊が媒介するジカ熱やデング熱等のウイルス感染症について、長崎大学熱帯医学研究所長・森田公一教授をはじめ熱帯医学研究所の専門家が、一般市民の方々に説明した。

#### ②住民説明会等の開催

長崎大学は、平成 24 年以降、48 回に及ぶ住民説明会等を開催し、長崎大学周辺の地域社会の方々のご疑問やご不安の共有や解消を図ってきている。【資料 4-3】

#### ③シンポジウム「感染症対策の未来」の開催 (平成 28 年 10 月 10 日)

文部科学省との共催で、現在検討中の長崎大学坂本キャンパスへの BSL-4 施設の設置について、その必要性や安全性に関する議論を深め、

地域住民や関係者の方々の理解を深めていただくために開催した。

【資料4-4】

④長崎大学感染症ニュース「感染症とたたかう」の配布

「論点整理」のP18の「5. BSL-4施設と地域の関係について」に、「感染症研究や人材の育成の成果を十分に公表するとともに、感染症に関する情報提供などを通じて、地域住民がメリットを感じられるようにすることが不可欠であるとの意見も少なくなかった。」と記載されていることも踏まえて、平成27年12月から長崎大学感染症ニュース「感染症とたたかう」を発行し、希望される地域住民の方々に回覧あるいは配布を行っている。

本ニュースは、その時点で注目すべき感染症の話題をわかりやすく解説するとともに、長崎大学の感染症研究や人材育成の取り組みを紹介しており、1回/月の頻度で作成・配布（回覧）を行っている。

現在、32の自治会を通して約1,300部、図書館や公民館等の公共施設において約1,000部、市内の病院や大学病院等の医療関係施設において約800部、合計約3,100部を配布（回覧）している。

- 第1号：インフルエンザの季節に備えましょう（平成27年12月）
- 第2号：ノロウイルスの感染に気を付けましょう（平成28年1月）
- 第3号：子どもが“風邪”を引いたらRSウイルス感染症の疑いも  
（平成28年2月）
- 第4号：肺炎は日本人の死因の第3位 高齢者は肺炎球菌ワクチン接種を  
（平成28年3月）
- 第5号：小さな子どもに多い麻疹と風疹 入学前までにワクチン接種  
を2回（平成28年4月）
- 第6号：口の中が痛いヘルパンギーナ  
飲食が辛いので、脱水に注意（平成28年5月）
- 第7号：夏の集団感染が多い手足口病  
子どもの手足の発疹がサイン（平成28年6月）
- 第8号：家庭でも発生する食中毒  
10月までは十分ご用心を（平成28年7月）
- 第9号：プール以外でもうつるプール熱  
症状は発熱、喉の痛み、結膜炎（平成28年8月）
- 第10号：長引く咳はマイコプラズマ感染症？  
大人でもこじらせて重症化も（平成28年9月）
- 第11号：早めに準備したいインフルエンザ対策（平成28年10月）